

学力向上フロンティアスクール中間報告書

都道府県名	福島県
-------	-----

・学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	双葉郡浪江町立浪江中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	6	4	4	1	15	27
生徒数	159	151	151	3	464	

・実践研究の概要

1. 主題（テーマ）

より高い目標を持ち、主体的に学習に取り組む生徒の育成 ～浪中方式の創造を目指して～
--

2. 内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・全教科 全校をあげて、全職員による実践研究とするため

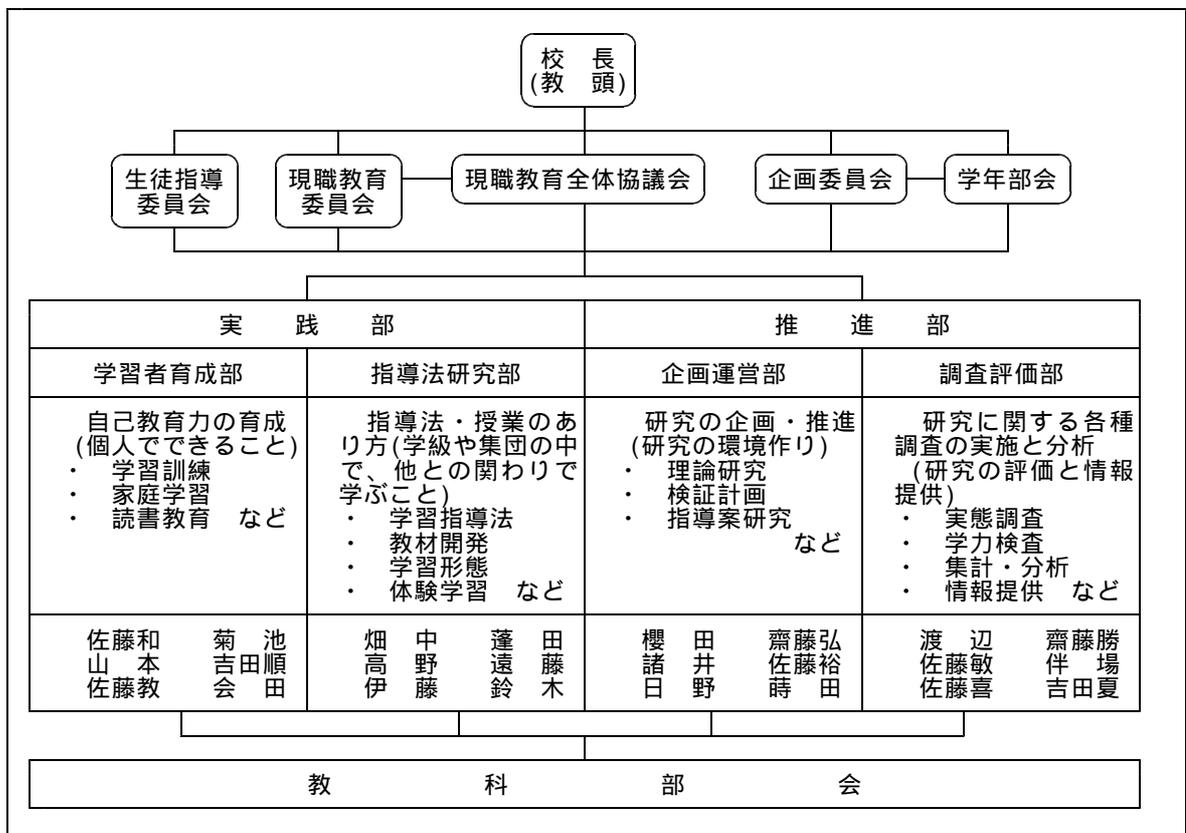
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 主体的に学習に取り組ませるための指導の工夫 研究の見通し(仮説)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業における多様な学習活動や効果的な支援を工夫するとともに、家庭学習の充実を図る指導を継続していけば、学習に対する意識が高まり、主体的な取り組みを引き出すことができるであろう。 <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アンケート調査等の実施による実態の把握。 ○ 視察研修や文献研究による方向性の検討。 ○ 「まとめの時間のまとめ取り」による時間の有効活用と補足的・発展的な学習の試行。家庭学習への連絡。 ○ 密度の高い授業の創造。 ○ 家庭学習充実のための電話による学習相談の試行。
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 互いに高め合う学習者集団の育成と継続的・系統的な発展学習の工夫 研究の見通し(仮説)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業やそれを支える諸活動の中で、よりよい学習者集団の育成を図るとともに、継続的・系統的な発展学習の方法を構築することにより、高い目標を持って学習に取り組む生徒を育てることができるであろう。 <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アンケート調査等の実施による実態や変容の把握。 ○ 視察研修や文献研究による理論の再構築。 ○ よりよい学習者集団育成のための組織的・継続的な指導の充実。 ○ 継続的・系統的な発展学習の試案作りと実践。
--------	--

平成 16 年 度	<p>テーマ より高い目標を持ち、主体的に発展学習に取り組む生徒の育成(浪中方式の確立) 研究の見通し(仮説)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 互いに高め合う学習者集団づくりの手法と継続的・系統的な発展学習の方法を確立することにより、より高い目標を目指して主体的に発展的な学習に取り組む生徒を育むことができるであろう。 <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 諸調査の実施による変容の確認。 ○ 互いに高め合う学習者集団育成のための手法確立。 ○ 継続的・系統的な発展学習の教材化と実践的検証。 ○ 研究成果の確認とその普及。
--------------------	---

(3) 研究推進体制



・平成15年度の成果及び課題 1. 研究の成果

今年度は、昨年度実施した「まとめの時間のまとめ取り」(50分授業のうち、まとめの時間にあてる5分間を切り離し、それをまとめて1日25分ないし30分の授業を、6校時ないし7校時として実施する時間割構成)を発展的に解消し、『帯学習』の形で授業の最初か最後、またはその両方に、5～10分程度の時間を取り、発展的な学習を組み込む形で取り組んできた。帯学習は、授業開始時に前時までの基本的な学習内容を確認する小テストや、まとめの段階での確認テストなどが一般的なものであると思われるが、そこに全生徒が手軽に、その能力に応じて、数時間の継続的な取り組みとして実施できる発展的な学習を位置づけることにより、学習意欲を高めることができた。(自己評価や観察による変容確認のため、具体的な数値としてのデータはない)

単なる学習としての発展的な学習ではなく、日常生活との関わりを重視し、生活に役立ったり、生活の中で感じる疑問の解決につながったりする内容も盛り込むことで、生徒の意欲を高めると共に、教師にとっても、それを仕組むために教材研究をより深めたり、常にその題材となるものを見つけようとする意識を持ったりといった、指導技術の向上につながる効果があった。

2. 今後の課題

今回の取り組みにより、生徒の学習意欲を高めることができたと思えているが、発展的な学習としての内容については、今後も更に工夫を加え、充実を図っていく必要がある。

発展的な学習に継続的に取り組ませることは、生徒の意欲を高め、主体的な取り組みを引き出す面では効果的であるが、学習内容の理解や定着という面では十分な効果を得ることができない。発展的な学習への取り組みと並行して、基礎的・基本的な内容の定着を図る手だてについても、有効な方法を見つけ出していく必要がある。

今年度は、よりよい学習者集団の育成についても取り組んではきたが、十分なものではなかった。学習者単独で成立する学習は少なく、ほとんどが他の上位学習者・同位学習者との協調関係によって成立するとの考え方に立ち、今後、より力を入れて取り組んでいきたい。

・学力把握のための学校の取組について

- 年度末(2月)に教研式学力検査を実施し、前年度の結果と比較することにより、学力の変容を確認する。
- 評価の在り方について、継続的な研修を進め、評価規準及び基準に改善を加え、より有効で正確な評価に努める。

・フロンティアスクールとしての成果の普及について

- 平成16年1月22日、本校において、域内小・中・高校及び県内フロンティア事業指定校を対象に、成果の普及並びに本校の課題を確認するため、中間発表会を開催した。
- 平成16年11月30日、本校において、域内小・中・高校及び県内フロンティア事業指定校を対象に、成果の普及のために発表会を開催する予定である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無